



## 渡米のご挨拶

弁護士 栗原 秀和

日頃より大変お世話になっております。

さて、私事で恐縮ですが、この度、外交官の妻が在ロサンゼルス総領事館に発令になったことを契機に、家族で渡米することとなりました。

私自身は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ロースクール(LL.M.)に留学し、カリフォルニア州弁護士の資格を取得する予定です。

思えば、外交官から弁護士に転身して一五年が経過しようとしております。

この間、浅学非才の私が大過なく弁護士業務を続けてこられましたのは、依頼者・顧問先をはじめご信頼を賜りました皆様はもちろん、叱咤激励を頂いた先輩弁護士、切磋琢磨した同僚弁護士をはじめとする法曹関係者の皆様、そして日常業務を支えて頂いた事務所スタッフのお陰です。ここに、心から感謝申し上げます。次第です。

一五年という経験は、弁護士としては成熟にほど遠いですが、この間様々な事件を扱い、様々な人々を依頼者として、あるいは相手方として、お付き合いさせて頂いて思うのは、この仕事の厳しさと大きなやりがいです。当初何も知らずに蛮勇を發揮

して解決していた事件も、今振り返れば多くの偶然や人の情けに助けられていたことが分かります。私が関与した事件で、少しでも幸せになれた方がいらっしやれば、望外の喜びです。

さて、コロナ禍という未曾有の災禍の中で、私達の社会の脆弱性が明らかになるとともに、繰り広げられる醜悪な政治に、日本の民主主義の下地が露呈しているように思えます。また、グローバリゼーションへの適応という旗印のもと、先達から引き継がれてきた社会の紐帯たるベキモラルや倫理がみるみる崩壊し、私達一人一人が「自己責任」という言葉に象徴される殺伐とした世界に放り出された結果、自分の利益のみを追求しようとする人間が増えていくようにも思えます。

子供達が希望を持って、人間らしく生きることが出来る社会を作るために何が出来るのか、アメリカの地で改めて勉強し直し、今後の人生で如何にして社会に貢献するか、私なりに考えたいと思います。

最後に、私の弁護士人生は、たかさき法律事務所に入所することから始まりました。高崎に縁のない、異色の経歴の私を拾って頂き、さらには共同経営者として迎え入れて頂いた長井友之弁護士、そしてたかさき法律事務所で苦楽を共にした全ての弁護士及び事務所スタッフに対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

## パートナー就任のご挨拶

弁護士 飯野 豪

本年七月一日より弊事務所のパートナー弁護士に就任いたしました飯野豪と申します。この場をお借りして、ご挨拶をさせていただきますたく存じます。

私は、幼いころより弁護士を目指してまいりました。お困りの方と二人三脚で問題解決に取り組めること、世間に安易に迎合せず社会正義の実現を目指すことに魅力を感じたためです。ジョン・グリシャムの『The Rainmaker』(邦題「原告側弁護士」という小説を読み、悪徳保険会社に立ち向かう新米弁護士の姿に興奮したことは、今でも鮮明に覚えています。

弁護士になるというモチベーションを維持し、(手前味噌ですが)持ち味の安定性・継続性を発揮できた結果、司法試験に合格でき、地元で恩返しをしたいという思いから弊事務所へ入所いたしました。私が弁護士として弊事務所にて職務を開始したのは平成二六年一二月のことです。早六半年が経過しております。これまで、かの小説のように数千万ドル相当の認容判決を得たことはありませんが、実務経験を積む中で、大切にしなければならぬ事項が見えてきま

した。それは、一つ一つの事件、当事者と誠心誠意向き合い、法的見地に照らした決着点の見通しを共有してクライアントのニーズを可能な限り実現することです。同小説の内容を今振り返ってみると、勸善懲悪的な側面よりも、落着きの良い結果を得るために、いかに材料を揃え、クライアントと足並みを揃えられるかという点に目がいきます。

パートナー弁護士に就任して以降、このような思いをより強くしております。弁護士人口の増加が叫ばれ、法律事務所の在り方について問われる世の中となりましたが、弁護士・法律事務所が生き残る鍵は、クライアントを満足させるに足りるサービスを提供できているか否かにあると私は考えます。長年にわたって弊事務所を支えてきた栗原弁護士が海外留学し、弊事務所の陣容にも変化が生じます。今後、代表弁護士である長井弁護士及び田島弁護士をはじめとして弊事務所一丸となり、クライアントの皆様

様に質の高いサービスを提供できるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



## 職場の太陽・事務所の星

弁護士 長井友之

栗原弁護士は当事務所の太陽であります。現在までに当事務所に所属し活躍された弁護士は二〇名を優に超えます。各OBの顔ぶれを思い起こしますと、どなたも、各自の持ち味を存分に発揮され、現在のたかき法律事務所の礎を築いてくださいました。

その中でも、栗原弁護士は、「人は石垣、人は城」との信念の下、所属弁護士や事務職員（バラリーガル）に対し、暖かい眼差しで見守りつつ、己の職責（使命）を真摯に果たす姿を身をもって教えてくれました。時間を大切に制限された時間の中で全力を尽くす！栗原弁護士の背中をみて、自分はまだまだ甘いと気を引き締めた弁護士も多くいたはずですが、また、ムードメーカーとしての役割も果たしてくれ、良好な職場環境を構築してくれました。経営面においては、共同経営者として、私の悩みや戸惑いを軽減すべく、有益な意見や多くの解決策を提案し自ら実践してくれました。

自ら理想とする状況に向かって、真っ直ぐに途を切り拓く覚悟とバイタリティー、私も見習いたいものです。

栗原弁護士は、私の弁護士人生の中で最も信頼できる弁護士の一人であり、人間としても尊敬できる正に【漢】であります。

栗原先生、長期に亘る貢献に感謝いたします。将来、また机を並べる日が来ることを祈念いたします。お元気で、ご活躍ください！ありがとうございます。

飯野弁護士は当事務所の星であります。飯野弁護士は、その冷静かつ温厚な人柄と粘り強い取組みにより、多くの依頼者を苦境から救い出し、多くの飯野ファンを獲得されました。

当事務所には、個性の異なる弁護士が多数在籍しておりますが、かつて、飯野弁護士が入職した際、当事務所の弁護士レパートリーが広がり豊かになったと直感しました。それは、「品格」であります。押し出しの強い弁護士は、ともすると辣腕との誤解を招きますが、決してそうとは限りません。飯野弁護士のように、穏やかに、しかし冷静沈着且つ確実に準備を整え事に当たる弁護士こそ、真に強い弁護士だと思えます。その意味で飯野弁護士は、当事務所の幅を広げてくれた功労者であります。正に、期待の星としてのスタートを切られました。あれから幾星霜、弁護士として有能なだけでなく、経営面からも当事務所を支える大黒柱の一員になってくれました。

経営弁護士（パートナー）として歩み始めた飯野弁護士は、これから想像を超える困難を経験し、窮地に立たされることもあるはずですが、しかし、飯野弁護士の人柄に照らしみると、多くのスタッフが進んで飯野弁護士への協力を惜しまないはずであります。後顧の憂いなく、更なる高みを目指して、邁進されることを期待しております。

かつて、私が夢見た【泰山北斗】という境地に、飯野弁護士なら到達できるはずですよ。

## 事務所の新体制

弁護士 田島慎太郎

弊事務所にとって今夏最大のトピックは、なんとといっても栗原弁護士の渡米及びロースクールへの留学です。私が弊事務所に入所したときのパートナーは小林弁護士、宮澤弁護士、長井弁護士及び栗原弁護士の四名であり、それぞれのパートナーから多くのことを教わって参りました。特に栗原弁護士からは、最も年齢が近かったことなどもあって、アシエイトとしてもパートナーとしても多くのことを学びました。栗原弁護士が入学する予定のUCCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）は西海岸屈指の名門大学であり勉学のレベルも相当高度であると予想されますが、栗原弁護士の能力、勤勉さ及びコミュニケーション能力であれば、彼の地でもこれまで以上に活躍されるものと確信しております。

続いてのトピックは、飯野弁護士のパートナー就任です。飯野弁護士は弁護士七年目であり、書面作成能力の成熟や顧客対応能力などの点で最初のピークに達する年代です。弊事務所に限らず、法律事務所のパートナーに就任するということは一般的には事務所から給与を得る立場から事務所の経費を支払う立場に変わることを意味し、独立と同等以上の金銭的・精神的な負担が生じます。飯野弁護士は、そのような事情を踏まえてなお弊事務所のパートナー就

任を選んでくれたのです。今後は協力し、更に新たなパートナーを迎え入れられるような魅力ある事務所にしていきたいと思います。

さらに、少し時期は過ぎますが、四月には佐伯弁護士がインハウスロイヤリーに転身されるという変動もありました。佐伯弁護士は、東京在住という事情やコロナ禍の影響により主にテレワークで業務に当たって来ていましたが、その資質と努力により、通常どおり出勤する弁護士と遜色ない成果を上げてきていました。弊事務所において見せてくれたバランスの取れた実力を、現在は企業内で発揮されています。

最後に、私は、この度、長井弁護士とともに弊事務所の代表に就任しました。既にパートナー就任から満七年が経過しましたが、この度代表を名乗ることになり、身が引き締まる思いです。長井弁護士・栗原弁護士はもちろんのこと、これまで弊事務所のパートナーに就任しその後独立されていった諸先輩方と比較すれば浅学非才の身ではありますが、役割に恥じぬよう、全力で業務に邁進する決意です。

このように、弊事務所は、今まさに変動の時期を迎えておりますが、依頼者のために全力を尽くすという使命が変わることはありません。長井弁護士の巻頭言にもありましたとおり、ワンチームとして全力で業務に取り組んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、切にお願い申し上げます。

# 残暑お見舞い申し上げます



長井 友之

二〇年間、封印(?)していたゴルフですが、この春から再開しました。サーキット走行や登山も楽しいのですが、年相応の趣味(スポーツ)はないかと考えていたところ、ゴルフを思い出した次第です。やり始めてみると、やはり面白い! 適度な運動能力と技術は必要ですが、闘争心だけではどうにもなりません。自制心・平常心の保持・陶冶が肝要であり、己の未熟さを思い知らされます。

技術とセルフコントロール、弁護士業務に通じるものがあります。不得手だからこそ、私はチャレンジしたくなるのだと思います。当たり前ですが、弁護士業務や岩登りと異なり、ミス(ショット)の被害は専ら自分自身に帰属し、余り他人に迷惑を掛けません。楽しく遊べる所です。スコアは兎も角、当面、飽きずに没頭してゆけます。

田島慎太郎

群馬県内の新型コロナウィルス感染者が八月一三日に二五二名に達し、ついに群馬県も緊急事態宣言の対象になりました。六月中旬から七月中旬ころは毎日数名程度だったのに... 「Go To トリップ」等を利用した国内旅行やオリンピックの現地観戦を楽しみにしていた日々が遠い昔のように感じ

事象の急変を受けて、自宅でおとなしく読書をしたりジョギングしたりして人との接触を減らしつつ過ごしております。自粛ペースを保って過ごしております。自粛期間が長期化し心身のバランスを崩しやすい状況になっていきますので、皆様、くれぐれもご自愛の上お過ごしください。

飯野 豪

ご挨拶にて書かせていただきましたが、パートナー弁護士への就任が直近における大きな変化です。人線りや経費効率等、経営に参画することで初めて見えてきたものが多々あり、未経験の課題に挑戦する新鮮さを感じています。経営者の方々にとっても良い相談相手になれるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

余談ですが、ご挨拶にて触れた「The Rainmaker」は、小説と映画とで主人公の行く末が異なります。私は映画版の方が好きですが、痛々な作品ですので、興味の湧いた方は触れてみてください。

佐藤 亮

四月に妻が仕事に復帰しました。私としては、夫婦で、育児・家事を分担し仕事との両立を目指しているつもりです

が、なかなか円滑に進まず、最適解を探す毎日です。

また、新型コロナウィルス感染症の拡大から二度目の夏になりました。自分が子供のころから慣れ親しんでいた夏の行事等について、自分の子供らに経験させることが難しく、大変残念に感じています。

ところが、子供たちは新しい生活様式にも対応し、毎日「楽しいこと」を探しており、その柔軟性・適応性に感心します。私も、新型コロナウィルス感染症を恐れず・侮らず、公私ともに充実した生活を送らなければと考えています。

並木 駿介

いつの頃からかこの時期になると戦争に関する書籍を手にとるのが習慣になっています。今年は、大木毅著『太平洋の巨艦』山本五十六(二〇二二年、角川新書)を読みました。一般人にも理解しやすい分析視点(欧米の軍事史研究で一般的に用いられる視点のようです)を軸とした

## 退所のご挨拶

弁護士 佐伯 智子

三月末をもちましてたかさき法律事務所を退所し、東京の企業で働くこととなりました。海外転居による中断がございましたが、約三年間執務させていただきました。多くのことを経験させていただき、皆様からは多大なるご指導とご温情を賜り厚

く御礼申し上げます。至らぬ点多くあったと思いますが、皆様から学ばせていただいたことは、私の人生において大きな財産となりました。会社という組織で働くことは未知のことではあります。学んだことを活かして精進して参ります。

客観的な分析・論評が好印象でした。我が国では長年、軍隊や軍人に関する研究がタブー視されてきたように思われますが、著者によれば、近年、歴史学者による研究が盛んになりつつあるとのことですので、時間のあるときにこういった研究にも触れてみたいと思います。

松野 弘輝

残暑お見舞い申し上げます。

残暑という言葉には、秋が本格的に始まるまでの少しの辛抱といったニュアンスがあるように思います。

しかし、近年の夏の暑さは尋常でないように感じています。そうしますと、恐らく、控えめに表現しても猛暑と言わばき日々が、まだまだ続くと思えてなりません。ただでさえ体調に気をつけねばならないご時世ですが、暑さにも負けないように、さらに気を付けて生活をしていきたいと思えます。

皆様におかれましても、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。